

第2号様式(第10条関係)

令和 5年 4 月27日

沖縄県議会議長 殿

沖縄県議会議員 赤嶺 昇



令和4年度政務活動費に係る収支報告について

沖縄県政務活動費の交付に関する条例第10条第1項に基づき、別紙のとおり令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。



別紙

令和4年度 政務活動費収支報告書

議員名 赤嶺 昇

1 収入 政務活動費 1,800,000 円

2 支出

(単位:円)

項目	支出額	備考
調査研究費		
研修費		
広聴広報費	640,620	議会報告書作成・ポスティング代金
要請陳情等活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費	73,800	新聞購読料
事務所費	1,013,652	事務所家賃・水道料金・電気料金
事務費	77,533	固定電話料金・携帯電話
人件費		
合計	1,805,605	

注 備考欄には、主たる支出の内訳を記入する。

3 残余 0 円

経費区分別支出一覧表

経費区分 広聴広報費

日付	使 途 内 容	支出額	充当割合	充当額
1/6	議会報告書作成	382,800	全額	382,800
1/16	議会報告書ポスティング代金	257,820	全額	257,820
A. 小計				640,620
B. 支払証明書計				
広聴広報費 充当合計		/	/	640,620

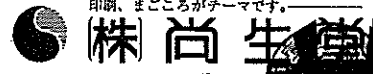
平成25年1月6日

領 収 証

No 008190

赤嶺 昇

殿



印刷、まごころがテーマです。

株 尚 生 堂

代表取締役 與那覇 隆雄

本 社 / 〒901-2114 沖縄県浦添市安里1-5-3
 TEL(098)876-2232 FAX(098)876-2241
 那覇支店 / 〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1丁目7番12号3F
 TEL(098)869-0568 FAX(098)869-0578
 嘉手納支店 / 〒904-0203 沖縄県嘉手納町字嘉手納440
 TEL(098)957-1671 FAX(098)957-1671
 うるま支店 / 〒904-2204 沖縄県うるま市西原578-2F
 TEL(098)989-7338 FAX(098)989-7383

下記の金額正に領収致しました

合計金額 ¥ 382,800-

品 目	数 量	単 価	金 額
議会報告書	43,500部	8	348,000
(No 009712) 再発行			
現金			
小切手			
手形			
相殺			
振込			
消費税			34,800
合 計			382,800

現金	
小切手	
手形	
相殺	
振込	



立て
います

広聴広報費 充当額 ¥382,800

充当割合 10/10 (政務活動のための資料作成)

領収証 赤嶺昇

No. _____
登録番号

金額

¥257820

但し行ツホステック代(42615番)として
令和5年 1月 16日 上記正に領収いたしました

内 訳	
現金	
小切手	/
手形	/
税率	金額 (税込) 消費税
%	
税率	金額 (税込) 消費税
%	



株式会社 **ホスティング** **ベネッセ**
〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮3丁目
TEL: 098-8-**12345678**

広聴広報費 充当額 ¥257,820

充当割合 10/10 (政務活動のための資料配布)

広報紙充当可能割合確認票

議員名

赤嶺 昇

広報紙名	紙面割合
赤嶺ノボル 県議会報告書 令和4年	<ul style="list-style-type: none"> ●全体面積: $40.7\text{cm} \times 27.3\text{cm} \times 4\text{面} = 4444.4\text{cm}^2$ ●充当対象外記事: 面積計 = 0cm^2 ① $0\text{cm} \times \text{cm} = 0\text{cm}^2$ ●充当可能割合: $1 - (0\text{cm}^2 / 4444.4\text{cm}^2) = 1 \approx 100/100$以下
赤嶺ノボル 県議会報告書 令和5年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ●全体面積: $40.7\text{cm} \times 27.3\text{cm} \times 4\text{面} = 4444.4\text{cm}^2$ ●充当対象外記事: 面積計 = 0cm^2 ① $0\text{cm} \times \text{cm} = 0\text{cm}^2$ ●充当可能割合: $1 - (0\text{cm}^2 / 4444.4\text{cm}^2) = 1 \approx 100/100$以下



沖縄県議会議長 赤嶺ノボル 県議会報告書



Speaker Okinawa Prefectural Assembly Japan

Noboru Akamine

歓迎の挨拶

デービッド・イゲ ハワイ州知事ならびに、ハワイ、そして、各国からお越しの世界のウチナーンチュの皆様、ようこそ沖縄へお帰り下さいました。本日、イゲ州知事を沖縄県議会にお迎えするにあたり、沖縄県議会を代表いたしまして、心より歓迎申し上げます。

イゲ州知事は、2014年に沖縄の県系人として初めて米国州知事に就任され、2期約8年の在任期間中、安価な住宅供給によるホームレスの減や、州の100%再生可能エネルギー目標に向けた取り組み、若者世代に向けた教育の注力、州財政の持続可能性の確保に取り組むなど、多くの実績を残されました。

本日、イゲ州知事を、本会議場にお招きしご挨拶をいただくことは、県民ならびに、ハワイをはじめとする世界のウチナーンチュにとって大変光栄であり誇りです。

沖縄の海外移民の歴史は、一世紀以上前の1899年に沖縄から26人の移民がハワイに向けて出発したのが始まりでした。先人達は言語、生活習慣が異なる新天地において、筆舌に語り尽くせぬ幾多の困難を、不断の御努力によって乗り越えられました。

今日においては約42万人の県系人が、世界各国で御活躍しております。

過酷な状況下においても、ハワイの県系人は、沖縄戦により焦土化した故郷を救うべく、寄付金を募り、豚550頭やヤギ800頭を沖縄に送り、食糧難に苦しむ県民を支えました。

ハワイからのまさに命綱といえる救済は、医学の分野にも及び、沖縄戦により崩壊した医療を担う人材を育成する制度として、県立中部病院における医師卒後臨床研修制度の礎を築いたのはハワイで開業していた県系人の山内医師の御尽力によるものでした。のちにこの制度は、日本の医師臨床研修制度の構築にも寄与しました。

この場を借りて、沖縄県議会を代表し、ハワイの県系人をはじめ、沖縄への支援をされてこられた世界のウチナーンチュの皆様に対し、心より御礼申し上げます。

沖縄の日本復帰50周年と第7回世界のウチナーンチュ大会を迎える本年は、次の50年の起点となる特別な年です。御参集の皆様におかれましては、沖縄と世界のウチナーンチュの未来についてさらに連携を強化し、次代に成果を残していく機会となることを期待しています。

結びに、イゲ州知事をはじめ、本日御参集の皆様のみますの御健勝、御活躍を祈念申し上げ、歓迎の御挨拶といたします。

令和4年10月31日

沖縄県議会議長 赤嶺 昇



イゲ ハワイ州知事 沖縄県議会本会議場スピーチ (集合写真)



明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、沖縄県議会を代表いたしまして謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、沖縄の本土復帰50周年という大きな節目となる年でありました。沖縄県議会は、本土復帰50周年にあたり、岸田文雄総理大臣へ「沖縄の諸課題を解決し、真に平和で豊かな沖縄県を目指す本土復帰50年に関する意見書」という沖縄の決意を伝えました。

さらに、全戦没者追悼式においては、本土復帰50周年の慰霊の日に、沖縄から平和への思いと、「ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対し、早期停戦、撤退を求める意見書・決議」を世界に向けて発信しました。

また、第7回世界のウチナーンチュ大会につきましては、大会を成功に導くために、県系人であるハワイ州イゲ知事及びハワイや米国本土の沖縄県人会に対して、県議会議員団による表敬を行い参加を求めました。

その結果、イゲ知事による沖縄県議会本会議場でのスピーチが実現し、第7回世界のウチナーンチュ大会が大きく盛り上がる要因の一つとなりました。このように、コロナ禍でありながら、前向きな話題も見られ、少し光が見え始めた一年であったと考えております。

改めて、今年は、復帰50周年に続く、これからの50年の最初の1年であり、沖縄の独自性や強みを活かしながら、「持続可能な沖縄の発展」や「安全・安心で幸福の実感できる島の形成」等が求められております。

その達成のため、駐留軍用地跡地の有効利用、県土の均衡ある発展、離島・過疎地域等における持続可能な地域づくり等、多種多様な施策を実現させなくてはならず、沖縄関係予算についてしっかりと確保する必要があります。

県議会といたしましても、沖縄全体のさらなる振興・発展のためにもあらゆる課題に対して、全力で取り組んでまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染症にご対応していただいております医療従事者の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、全ての沖縄県民及び世界のウチナーンチュの御盛栄並びに御発展を心から祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

沖縄県議会議長 赤嶺 昇

皆様の積極的なご提言をお待ち致しております。
又、行政相談等お困りのときは、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお伺いさせていただきます。

議員
事務所

〒901-2114
沖縄県浦添市安波茶3丁目5番2号

(内部資料)

赤嶺ノボル
連絡先

携帯090-2586-4722
MAIL noborunoboru777@yahoo.co.jp



沖縄県議会

表敬(ラーム・エマニエル駐日米国大使)
令和4年4月27日



イゲ ハワイ州知事・赤嶺ノボル・デービッド新川氏
令和4年7月21日



要請(岸田内閣総理大臣へ本土復帰50年
に関する意見書手交)令和4年5月14日



表敬(台北都府分処長)
令和4年3月7日



要請(沖縄県医師会要請)
令和4年10月5日



陳情(女性団体連絡協議会)
令和4年4月27日



陳情(沖縄県ハイヤー・タクシー協会)
令和4年4月27日



陳情(石垣市議会 1人1台端末・
空港駐車場)令和4年4月11日

県議会意見書首相へ

岸田氏「具体的努力続ける」

県議会の赤嶺昇議長ら14日、那覇市内のホテルで岸田文雄首相と面談し、沖縄の日本復帰50年に当たり県議会が全会一致で可決した「沖縄の諸課題を解決し、真に平和で豊かな沖縄県を目指す本土復帰50年に関する意見書」を手交した。岸田首相は「大きな節目を前に政府としても意見書や県民の思いを受け止めながら、具体的な努力を続けたい」と述べた。

赤嶺氏と県議会は与野党の比嘉京子氏、野党代表の島袋大氏の3県議が面談に臨み、それぞれ要望を述べた。赤嶺氏は観望を述べた。

岸田首相は「全国平均よりも低い県民所得や子どもの貧困、過重な基地負担といった課題に触れ、一つ一つ具体的な成果を積み重ねなければならぬ」と感じているとした。赤嶺氏は面談後、全会一致で可決し、それを直接手交できたことは意義がある。歴史的な日だと思つたと述べた。(大嶺雅俊)

光復に向けて緊急支援を求めた。比嘉氏は日米地位協定改定や基地問題における県との対話などを要請した。

2022年5月15日 琉球新報

交流、絆一層深めて 赤嶺昇 県議会議長

ワッターシマ、ウチナーへようこそお迎えくださいました。今日、約42万人の県系人が世界各国において政治や経済、教育、文化など各界で素晴らしい活躍をされておられ、また、日本と海外との友好親善に大きく貢献していることは同胞として大変誇りだ。

県議会としても今後とも各国際人会への訪問と交流を通じ、各県人会が抱える思いや課題を共有し、母親としてなすべき役割を果たしていく。

クの強固さを改めて確認し、継承発展を図るものだ。この大会を契機に大いに交流され、その絆をますます深めていくとともに、ウチナーンチュの平和を愛するチムグクルが世代と国境を越え、世界中につながることを念願する。

県議会としても今後とも各国際人会への訪問と交流を通じ、各県人会が抱える思いや課題を共有し、母親としてなすべき役割を果たしていく。

2022年11月1日 琉球新報

記者のメモ

出生地ブラジルにぜひ

〇…国際通りで開かれた世界のウチナーンチュ大会のパレードで、各国の参加者を歓迎した赤嶺昇県議会議長。ブラジルに生まれ、11歳まで過ごした。小学校では「多国籍の子どもたちがクラスにいっぱい。いろいろな人とい関係をつくる経験ができた」と語り、紛争が続く今の世界にこそ必要な姿勢と振り返る。パレード終点の交差点ではブラジルチームと合流。県人会会長の「ブラジルに来ないで！」との力強い招待に、「来年行くようにします」と笑顔。多様性あふれる出生地との親善をぜひ。

2022年11月7日 沖縄タイムス

「米初の県系知事に誇り」

イゲ知事、県議会で演説

第7回世界のウチナーンチュ大会に合わせて来県中の米ハワイ州知事、米初の県系知事に誇りを感じ、米初の大規模行事となったことを誇りに思つたと述べた。

イゲ氏は31日午後、県議会議場で演説した。イゲ氏は「日米関係、ハワイと沖縄の関係は太平洋地域の平和、法治、民主主義に関して非常に重要な関係だ」と述べ、今後の関係の深化に意欲を示した。沖縄とハワイとの今後の関係を再構築し、思いやりの心を示す「マラマー」の価値観を世界中に広めることが重要だと強調し、地球社会に対する「マラマー」の精神を共有できる存在として日本への感謝と関係の深まりに期待を寄せた。

赤嶺議長らと県議会議員、玉城知事ら幹部が議場に集まり、イゲ氏の演説を聴いた。赤嶺議長は冒頭のあいさつで、沖縄戦後に食糧難に苦しむ県民のためにハワイの県系人が様々な支援をしてきた歴史などを紹介し「ハワイの県系人をはじめ、沖縄への支援をしてきた世界のウチナーンチュの皆さまに心より御礼申し上げると感謝の言葉を述べた。海外の要人が県議会で演説するのは、1984年のジョージア州知事、38年ぶり、イゲ氏の演説は沖縄とハワイの深い関係性を踏まえて、特例で認められた。

2022年11月1日 琉球新報

赤嶺昇氏 県議会議長

チムグクルを世界へ

移民した先人たちは言語、生活、習慣、風土が異なる新天地で断絶の努力により幾多の困難を乗り越えてきた。県系人が世界各国で政治、経済、教育、文化等各界で活躍し、日本と海外との友好親善を築いてきたことに深く敬意を表する。

コロナ禍で人との絆の大切さが改めて気付かされた。大会を機にウチナーンチュの絆をますます深め、平和を愛するチムグクルが世代と国境を越え世界中につながることを願う。県議会としても、各県人会への訪問、交流を通じて県人会が抱える思いや課題を共有し母親としての役割を果たしていく。

2022年11月1日 沖縄タイムス

令和4年沖縄全戦没者追悼式 式辞

本日ここに、岸田文雄内閣総理大臣をはじめ、衆参両院議長、御来賓の御臨席と、御遺族の御参列を賜り、全ての犠牲者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、御遺族の皆様から哀惜の意を表します。

太平洋戦争末期、ここ沖縄の地では一般住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が行われました。戦火は全てをのみ込み、住民は銃弾と爆撃に追われ、飢餓に苦しみ、怪我や伝染病に倒れ、20万人余の尊い命が失われ、県民の4人に1人が犠牲となりました。この摩文仁の丘に立つと、逃げる場所などない、ただ絶望の淵に立たされた一人ひとりの足裏の痛みと、その痛みを耐えがたき果て、母のおもかけを脳裏に浮かべながら戦火に倒れた御霊の嘆きと無念、御遺族の深い悲しみと癒えることがない記憶に、胸が押しつぶされる思いであります。

なぜ、このような凄惨な地上戦が沖縄で行われたのかを、私たちは繰り返し、自分自身と社会に問い続けなければなりません。それこそが、この沖縄の地に眠る御霊への寄り添いなのだ、改めて心に誓うことが、真の慰霊につながるものと思えます。

令和4年5月15日、沖縄県は、本土復帰50年を迎えました。かの凄惨な戦火の果てにみた故郷の未来を本土復帰という希望に変えて、県民が一丸となり取り組んだ歴史の転換点でした。

新たな時代を生き抜くことを先人は成し遂げ、今、皆様の前に広がる沖縄があります。それは同時に、琉球王朝時代から受け継がれる文化や芸術、人々との交流、沖縄が何より大切にしてきた万国津梁の心を守りぬいてこそ、成し得たことだとも言い添えねばなりません。

沖縄には、戦後77年を経た現在においても、戦没者の遺骨収集、不発弾処理、軍事基地の返還と跡地利用など、戦争に起因する課題があります。地上戦当時、戦闘地域と住民が身を隠す避難地域の区別はなくなり、混乱を極めました。そ

のような極限状態のなかで生き延びた先人が、今の沖縄の復興を、新しい世代とともに成し遂げています。しかし、老いてもなお、地上戦の被害によって、様々な傷を負い、取り残される人々がいます。それらと隣り合わせに、子どもの貧困問題、過重な基地負担に起因するあらゆる被害、離島医療体制整備、陸上交通網整備など、何層にも重なる課題が沖縄にはあります。

私たちは、この本土復帰50周年の節目に迎える慰霊の日に、この沖縄の地に眠る全ての御霊に報いるため、今を生きる私たちの使命として、その課題を克服し、戦争のない平和な世界を実現するため、何を為すべきか、改めて向き合わなければなりません。

沖縄県議会では、ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対し、早期停戦、撤退を求める意見書・決議を全会一致で可決しました。

私たち沖縄県民は、沖縄の歴史の痛みを、今の時代に必要とされる役割に変えて実行します。これまでの時代を創ってきた世代、今を担う世代、次の時代を創る子どもたちとともに、世界中の沖縄県人ネットワークを結集し、沖縄がアジアの司令塔として、「ウクライナ支援」をはじめとする役割を、世界の中で果たしていけることが、日本のみならず世界の希望になると確信しています。

本日、心ならずもこの式典に参列できなかった皆様への平和への想いと共に、改めて、沖縄戦の惨禍を再び起こさない世界的な恒久平和の確立に力の限り尽くすことを、ここに固くお誓い申し上げます、式辞といたします。

令和4年6月23日

沖縄県議会議長 赤嶺 昇



赤嶺昇氏
県議会議長
県議会の赤嶺昇議長は沖縄全戦没者追悼式典の式辞で、「本土復帰50年の節目の慰霊の日に、沖縄の地に

戦争ない世界実現を 赤嶺昇氏

県議会議長

眠る全てのみ霊に報いるため、課題を克服し戦争のない平和な世界を実現するため、何を成すべきか向き合えないといけない」と決意を語った。

県民の4人に1人が犠牲になった凄惨な地上戦が行われた理由を「繰り返し自分自身と社会に問い続けなければいけない。それこそが真の慰霊につながる」と訴えた。

戦後も沖縄戦の被害によ

り「さまざまな傷を負い、取り残される人々がいる」と指摘。
「その隣り合わせ」に、現在の沖縄には、子どもの貧困問題や過重な基地負担に起因する被害など、何層にも重なる課題があるとの認識を示した。
県議会は全会一致で可決した、ロシアによるウクライナ侵攻の早期停戦・撤退を求める決議に言及した上で「沖縄県民は、沖縄の歴史の痛みを、今の時代に必要とされる役割に変えて実行する」と誓った。

2022年6月24日 沖縄タイムス



赤嶺昇県議会議長
あいさつ(要旨)
戦後77年を経た現在においても、戦没者の遺骨収集、不発弾処理、軍事基地の返還と跡地利用など戦争に起因する課題がある。極限状態の中で生き延びた先人が、今の沖縄の復興を、新しい世代

使命は平和な世界実現

赤嶺昇県議会議長

あいさつ(要旨)

と共に成し遂げている。老いてもなお、地上戦の被害によってさまざまな傷を負い、取り残される人々がいる。子どもの貧困問題、過重な基地負担に起因するあらゆる被害、離島医療体制整備、陸上交通網整備など、何層にも重なる課題がある。復帰50年の節目に迎える慰霊の日に、全てのみ霊に報いるため、今を生きる私たちの使命として、課題を克服し、戦争のない平和な世界を実現

するため、何をなすべきか、改めて向き合わなければならぬ。
県議会はロシア連邦によるウクライナ侵攻に対し、早期停戦、撤退を求める決議を全会一致で可決した。これまでの時代を創ってきた世代、今を担う世代、次の時代を創る子どもたちと共に、世界中の県人ネットワークを結集し、沖縄がアジアの司令塔として、「ウクライナ支援」をはじめとする役割を、世界で果たしていけることが、日本のみならず世界の希望になると確信している。

2022年6月24日 琉球新報